

一般社団法人日本社会福祉学会
第73回秋季大会報告

第73回秋季大会 実行委員長 空閑浩人(同志社大学)

2025年10月4日(土)・5日(日)の2日間、日本社会福祉学会第73回秋季大会が同志社大学で開催されました。1994年以来、同志社大学では約30年ぶりの本学会全国大会の開催となりました。

ふと、30年前との違いは何かと思ったときに、まずは京都への観光客の多さが挙げられると思いました。遠方から参加された方々は、京都駅での特に外国人観光客の多さに驚かれたことと思います。各地の観光名所も同様ですが、この混雑は京都ではすっかり日常の光景となっています。

また、その影響もあると思いますが(さらに当日は大阪・関西万博の閉幕まで約10日間ということもあって)、京都のホテル代の高さにも驚かれたことと思います。やむを得ず近隣県で宿泊先を確保された方々のお話も聞きました。

そのような状況であったにもかかわらず、ご参加下さった皆様には、心から御礼申し上げます。当日は小雨が降る天候でしたが、2日間で約780人の方々にご参加頂きました。本当にありがとうございました。

今回の大会テーマは、「現代社会福祉学の思想的基盤—理論と実践の根源を問う—」でした。世界を見れば依然として戦争のニュースが続き、国内でも貧困や孤立、排除や分断をめぐる問題は深刻化しています。今こそ私たち学会員の英知を結集する時だという思いのなかで、学問としての社会福祉学の思想的基盤に今一度立ち返り、その理論と実践の根源を問い直したいと思いました。そして本大会を、この時代の中での社会福祉学や学会のあり方を展望する機会にしたいと思いました。このような問題意識と思いのもとで、基調講演やシンポジウムを大会校企画として行いました。

加えて、「初期キャリア研究者研究交流会」「留学生と国際比較研究のためのワークショップ」「学会企画セッション」「特定課題セッション」ほか、口頭発表(約150件の発表がありました)やポスター発表(約70件の発表がありました)など、盛りだくさんのプログラムでした。登壇や発表してくださった皆様をはじめ、進行・講師や座長を務めて下さった皆様に感謝申し上げます。

以前にもお伝えしましたが、2025年は同志社大学の前身である同志社英学校が新島襄によって創立されて150周年の年でした。また2005年の文学部改組による社会学部の開設により、従来の文学部社会学科社会福祉学専攻から社会学部社会福祉学科となって20年の年でもありました。そのような年にこの学会の全国大会を開催させて頂けたことを、大会校教員・スタッフ一同、あらためてとても嬉しく思っています。

ご参加の皆様にとって、学び多い、また思い出に残る全国大会にしたいという思いのなかで、約2年間に渡って準備をして参りました。しかしながら、至らないところや行き届かないところ、皆様にご不便をおかけすることもあったと思います。実行委員長である私の力不足です。心からお詫び申し上げます。

第73回秋季大会は終了しましたが、今回の大会テーマに掲げたことが問われるのはこれからだと思っています。国内外での様々な社会的問題や課題があるなかで、そして社会福祉学を取り巻く状況が様々に変化するなかで、私も一人の学会員として何ができるか、何をしなければならないかを考え、気持ちを新たに精進して行きたいと思っています。

この度は、誠にありがとうございました。学会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。